

医学薬学教育部博士後期課程(看護学専攻)の三つのポリシー

【 博士(看護学) 】

大学院の目的 (大学院学則 第2条)	研究科・教育部(専攻)の教育研究上の目的
<p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p>	<p>豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的とする。</p>

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>【修了認定・学位授与の方針】</p> <p>看護学の研究者として一連の研究プロセスを自律して遂行・展開でき、または高度な専門性が求められる看護実践の多様な領域で、研究マインドに基づいた実践・教育・管理能力とその基礎となる豊かな学識を身に付けている。</p> <p>上記の人材育成を目的に、以下に示す「基盤的能力」、「専門的学識」、「倫理観」、「創造力」として、十分な学修成果を上げた者に博士(看護学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】</p> <p>・看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的に情報収集し、普遍性の高い看護実践・教育を導く看護理論の構築に寄与するとともに、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視した全人的・包括的な看護の視点を踏まえた研究活動を自律して遂行・展開できる能力を修得する課程を編成する。</p> <p>・全人的・包括的な看護の専門的な職業人として、国際的にも信頼され通用し、卓越した実践能力を研鑽し、看護専門領域の高度専門職業人を教育・指導・管理できる能力を体系的に修得する課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】</p> <p>本課程における教育は、授業科目の履修と学位論文の作成に関する指導により実施する。</p> <p>①1年次より、学位論文の研究計画を検討・作成する。また看護の事象が学術基盤に基づき明確に説明できることを目標とする共通科目を置く。各自の研究課題に関する妥当性のある質の高い研究方法を立案する能力を獲得するための選択科目を置く。</p> <p>②2年次前期までに学位論文研究計画と倫理手続きを遵守し研究を遂行し、3年次までに科学的根拠に基づく研究方法・研究成果の考察を踏まえた博士(看護学)学位論文を作成するための、研究計画審査、中間報告会、論文審査(予備・本審査)を編成し実施する。</p>	<p>【入学者受入れの方針】</p> <p>本専攻は、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成のための、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践の改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者の育成を目的とする。この目的を理解し、次の資質をもつ学生を求める。</p> <p>①看護学とその学際領域における幅広く深い学識を持ち、一連の研究プロセスを網羅的に立案・展開できる研究能力を身に付けている。</p> <p>②看護の現状認識と将来の展望に立ち、保健医療福祉における課題を総合的・組織的に把握し、解決を図ることができ、看護の高度で専門的職業人として国際的にも信頼・通用する卓越した知識・能力を身に付けている。</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】</p> <p>一般入試 筆記試験(専門科目、外国語(英語))、口述試験(修士論文又はそれに代わる学術論文、研究計画)及び成績証明書の成績を総合して、看護研究遂行能力等を評価する。</p> <p>社会人特別入試及び外国人留学生特別入試 筆記試験(外国語(英語))、口述試験(修士論文又はそれに代わる学術論文、専門分野における教育・実践活動の実績、研究計画)及び成績証明書の成績を総合して、看護研究遂行能力等を評価する。</p>
【 学修成果の到達指標 】	【 学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法 】	【 求める資質・能力 】
<p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】</p> <p>幅広く豊かな学識と各々の専門分野における高度な知識・研究能力を基盤に、看護の対象者を全人的な観点から理解し、教育・研究・社会貢献に取り組むことができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>社会の変化に即した「看護学」の学問発展に寄与する。</p> <p>東西統合看護学の切り口からアプローチできる。「東洋の知」と西洋医療の統合に立脚した看護実践知を開発・創造できる。</p> <p>国内外地域住民の生活文化に寄与する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>看護事象を捉えるための看護理論、看護学を追究する研究方法を修得、統合医療の観点からのアプローチを修得できる教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>看護理論を実践の場での活用の観点から理解し、各理論の考え方・発展させる方法を教授する。看護理論構築に必要な、看護事象の捉え方、看護学体系に位置づく構築プロセスを教授する。</p> <p>種々の看護研究方法の特徴及び適用範囲、限界等を理解し、看護学の研究的アプローチの方法を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、中間報告会、論文審査(予備・本審査)において、自身の看護学研究としての厳密性(学術性)に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>東西統合看護学に関心を持ち、看護学としての学術性の高い研究を実施することの意義を理解し、価値をおく者 生涯学習能力を身に付け、自身のキャリア形成に研究的アプローチが意義づけられている者</p>
<p>専門的学識</p> <p>【学修成果】</p> <p>専門的な知識・技術の必要性が強調されるなか、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視し、看護の対象者を全人的な観点から理解でき、その知見を看護本来の機能に立ち返り、実践現場で活用し、教育研究に還元する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>東西統合看護学の理論及び研究を理解し、概念の分析・統合ができる。</p> <p>生体を構成する細胞の活性化、生体そのものが持つ抵抗力を引き出す看護基礎科学を構築できる。</p> <p>コミュニティが持つ自助・共助の力を引き出し、その機能の持続可能な体制を構築し、社会資源として機能する実践展開を追究できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>人間の本来の在り方から全人的な個としての在り方、環境との相互関係で成長発達していく在り方、さらに、社会でのケアシステムの中での在り方、の三側面から看護事象を捉えることにより、研究課題・目的を設定、研究方法を選択の上、新規性、実践領域への応用性、厳密性(学術性)を備えた博士(看護学)学位論文を作成する教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>東西統合看護、すなわち統合医療における看護学の役割を明らかにする方法を教授する。</p> <p>個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視し、全体性に対して看護が働きかけていくプロセスを教授する。</p> <p>看護事象、研究課題に適した研究方法を選択・決定していくプロセスを教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、中間報告会、論文審査(予備・本審査)において、自身の研究の実践領域への応用性に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>東西統合看護実践領域に寄与するために、専門的で学術性の高い研究アプローチの意義を理解し、価値をおく者 看護の実践領域における創造的・革新的な研究アプローチに関心があり、価値を置く者</p>
<p>倫理観</p> <p>【学修成果】</p> <p>看護の学識者として責任と役割を果たす上での基盤となる看護哲学を身に付けている。</p> <p>自らの看護および人生経験を通して看護観や世界観を深めていくと同時に、普遍性を有する看護哲学を追究し続けることができる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】</p> <p>科学の歴史や哲学を看護(学)との関連で理解できる。</p> <p>看護倫理について深く理解できる。</p> <p>看護の学識者としての倫理観を備えられる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>普遍性を有する看護哲学を追究し続けるため、道理に反しない科学や看護の発展を見極める高い倫理観を培う教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>看護倫理、科学者の倫理について教授する。</p> <p>地域の機関・専門職と共同して、社会的弱者に対する倫理的課題に向けた取り組みについて教授する。</p> <p>個人や集団の持つ文化および倫理的側面を理解した上での看護実践について教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>評価は、中間報告会、論文審査(予備・本審査)において、自身の研究倫理に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】</p> <p>東西統合看護学領域の研究を自律して遂行するにあたり、倫理的配慮を貫く意思を有する者 これまでの研究実績のなかに、研究倫理的疑義が無い者、あるいは疑義に対して、他の研究者に納得のいく説明ができる者</p>

<p>創造力</p>	<p>【学修成果】 「実践の知を集積した学問」であることの看護学の、学問体系構築に寄与しうる研究を蓄積できる能力を身に付けている。 「東西統合看護」の構築を目指し、「東洋の知」を取入れた医療(統合医療)の研究手法について開発できる能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 西洋の高度な先端医療技術を中心とした看護実践と基礎教育に、個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視する「東洋の知」を取り入れることによる、看護の本来の目的に向けた研究を遂行できる。 より実践可能な方略を創造的、斬新で革新的な研究マインドで取り組む能力を醸成する。</p>	<p>【学修内容】 看護や教育の実践現場における優れた技術の科学的な根拠を追究し、理論化に向けた分析方法を教授し、看護学教育方法を開発する教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 看護理論の創出、評価・尺度の開発、システム化を目指し、看護実践の質向上に寄与する教育研究を教授する。</p> <p>ヒトの生体防御システムから、人間の健康、病気、回復を捉え、看護の新たな知の創出を目指す教育研究を教授する。 コミュニティでの生活を支えるため、個人・家族・地域・政策等を総合的に捉え、人々の持てる力を引き出すマネジメントにより、看護の新たな知の創出を目指す教育研究を教授する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 評価は、中間報告会、論文審査(予備・本審査)において、自身の研究の新規性に関する論述内容と、自律した研究者に相応しい質疑応答、学位論文との一貫性により、達成度を総合的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 東西統合看護学の研究者として、生涯において研究を遂行していく意思を有する者</p>
------------	---	---	--